

ふるさとワーキングホリデー

- 都市部の若者(大学生等)などが一定期間地方に滞在し、働きながら地域住民との交流などを通して田舎暮らしを学ぶ“国内版”ワーキングホリデー(ふるさとワーキングホリデー)のスタートアップを支援し、若者パワーで地域経済を下支えするとともに、将来的な地方移住を掘り起こし。

都市部の若者などのニーズ

- 通常の旅行では味わえない体験(地域づくりへの参加)がしたい
- 地域との交流を深めたい

それぞれのニーズをつなげ、「ふるさとワーキングホリデー」として具体化

地域のニーズ

- 繁忙期に人手がほしい
- 交流人口を増やし消費を拡大したい
- 少しでも多く定住してほしい

ふるさとワーキングホリデー

- 都市部の若者などが地域に滞在しながら、地元農家や企業の繁忙期等に、収穫の手伝い、加工品の製造などの作業に従事して一定の収入を確保。
- その収入により滞在費用を賄いながら、地域の住民の方たちとの交流などを通じて、田舎暮らしのスキル等を学ぶ。



- 若者パワーで地域生産活動に貢献、消費喚起
- 将来的な地方移住の掘り起こし

北海道事業(総務省:H28補正)の概要

【募集人数】 160名程度

【受入企業・施設等】

〔後志地区〕 スキー場、ホテル 150名程度

〔その他〕 観光、地域振興、林業、飲食業

※下川町、遠別町、上士幌町、鶴居村

【経費負担】

参加者 北海道までの旅費、食費

受入企業 参加者への賃金

道 参加者募集(広報、説明会)、道内の移動費、

就業場所での宿泊費、

地域住民との交流会開催経費 等

※ 全国8道県が採択され、道議会第4回定例会に提案予定